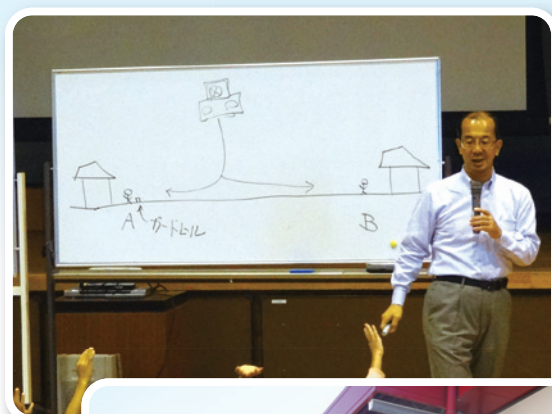


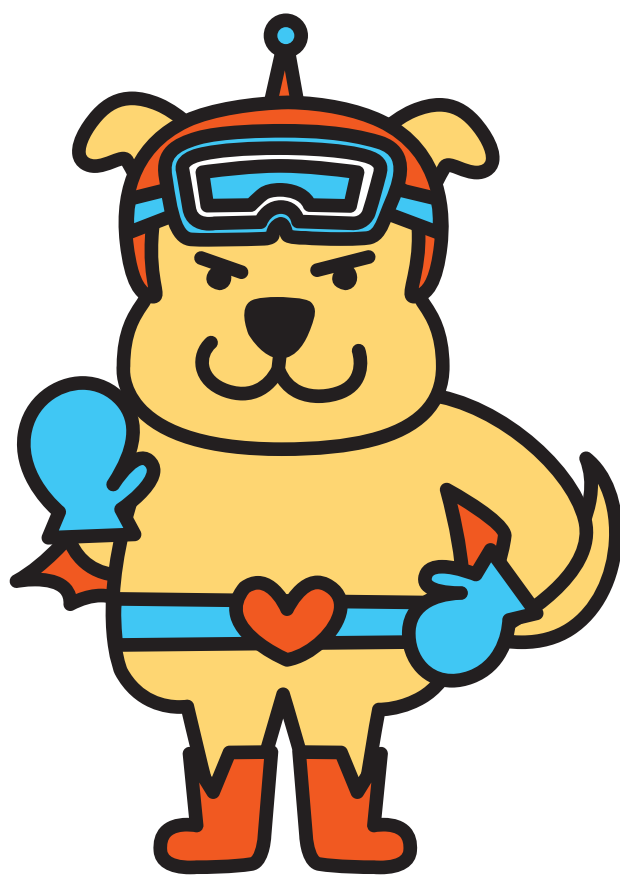
危険を予測し回避する能力を育てる

地域安全マップづくり 指導マニュアル



平成 28 年 7 月





目 次

1	地域安全マップづくりとは	3
2	地域安全マップの作製指導方法	4
	STEP 1 事前学習	5
	STEP 2 フィールドワーク	7
	STEP 3 地域安全マップの作製	8
	STEP 4 発表会	9
3	授業指導案（全4時間版）	10

※授業は、「総合的な学習の時間」や「特別活動」の時間を活用するほか、小学校3・4年社会科の「地域の人々の安全を守るための諸活動（地域の安全）」や「身近な地域の様子（学校のまわり）」の単元と組み合わせて実施することもできる。

序論 子供が犯罪被害に遭わないために

都内の各地域では、子供を犯罪から守るため、町会や自治会などの地域団体のほか、防犯ボランティア、学校、警察、行政等が連携して見守り活動を行っているが、子供が安全に安心して生活するためには、子供自身も犯罪に遭わないための能力を身に付けることが必要である。このために、本冊子では「地域安全マップづくり」を通じて、子供が安全な場所と危険な場所を周囲の様子から判断できるようにし、注意して行動するように指導する手法を解説する。

～子供に覚えてほしい「安全のための注意事項」～

- ・ 犯罪が起こりやすい、危ない場所へは近づかない。
- ・ やむを得ず、危ない場所を通らなければならないときは、保護者や友達等と複数で行くようにする。ひとりでは行かない。
- ・ 一緒に行く人はいないが、どうしても危ない場所を通らなければならないときには周囲の様子に注意して通るようにする。

1 地域安全マップづくりとは

地域安全マップとは、「犯罪が起こりやすい場所」（誰もが「入りやすく」、誰からも「見えにくい（見られにくい）」場所）を風景写真を使って解説した地図である。地域安全マップづくりを行うことにより、子供に周囲の様子から犯罪が起こりやすい場所を判断する力を身に付けさせ、危険な場所には近づかない、又は警戒する意識を育む。

犯罪が「起こりやすい」場所と「起こりにくい」場所

犯罪が起こりやすい危険な場所とは

「入りやすく」+「見えにくい（見られにくい）」場所です。

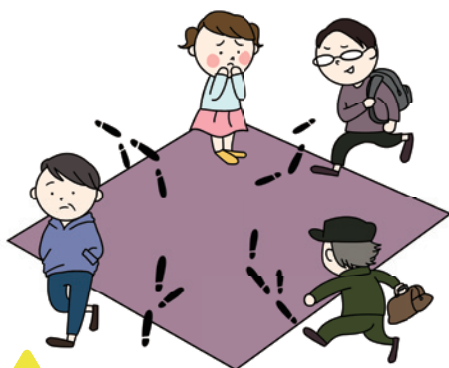
入りやすい場所+見えにくい（見られにくい）場所

= **犯罪が起こりやすい場所（危険な場所）**

入りにくい場所+見えやすい場所

= **犯罪が起こりにくい場所（安全な場所）**

※本マニュアルでいう「危険な場所」は、犯罪が起こりやすい場所、「安全な場所」は、犯罪が起こりにくい場所とします。



危！険

入りやすい場所

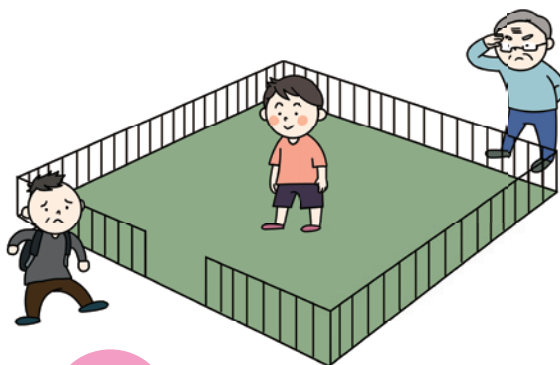
犯罪者は、怪しまれることなく、簡単に子供に近づける、犯罪者が好む危険な場所です。



危！険

見えにくい（見られにくい）場所

犯罪が目撃されにくく、発見・通報されることがなさそうな、犯罪者が好む危険な場所です。



安全

入りにくく見えやすい場所

犯罪者が子供に近づきにくく、周囲の人の監視（関心）があるため、犯罪が起こりにくい安全な場所です。

2 地域安全マップの作製指導方法

準備作業

- 指導計画を作成し、対象学年やクラス、担当教員、補助教員等を明確にするとともに、保護者等への協力を依頼する。（地元警察署のスクールサポーターにも協力を求める。）
- 複数の調査エリアを定める。
- フィールドワークやマップ作製に必要な消耗品等を用意する。

STEP 1

事前学習

- 危険予測に必要なことは「人」ではなく、「場所」であることを教える。
- 「入りやすく」「見えにくい」というキーワードを教える。

STEP 2

フィールドワーク

- 子供が自ら危険予測ができるようになるよう、キーワードをもとに景色解読力を高めるヒントを与える。（答えはすぐに教えないように注意する。）
- 犯罪が起こりやすい場所、起こりにくい場所の写真を撮る。
- 地域の人にインタビューを行い、社会性を養う。

STEP 3

マップ作製

- 子供が歩いた調査ルート of 街並みをフリーハンドで描く。
- フィールドワークで撮影した写真を貼る。
- 犯罪が起こりやすい（起こりにくい）場所と考えた理由をキーワードを使ってコメントに書く。

STEP 4

発表会

- 調査ルート上の犯罪が起こりやすい（起こりにくい）場所について、キーワードを使って説明する。
 - * みんなで意見や感想を伝え合うことにより、理解を深める。
 - * 下級生に向けて発表すると、次年度以降の取組につながる。
- 学習したことを振り返り、「安全のための注意事項」について指導する。

事前学習

授業指導案は、P 11 参照

犯罪が起こりやすい（危険な）場所の判断基準を教える。

「入りやすい」場所 + 「見えにくい」場所

= 犯罪が起こりやすい（危険な）場所

○「入りやすい」場所、「見えにくい」場所とは？

< 1 階が車庫の家が並ぶ道路 >



1 階が車庫という戸建住宅が両側に並ぶ道路は、誰もが「入りやすい」が、生活空間が2階となるため、歩行者の姿が「見えにくい」。

< 樹木に囲まれた公園 >



大人の身長程度の高さの樹木が公園の周囲に密集している公園は、ブロック塀に囲まれた公園と同じで、公園の周囲から中が「見えにくい」。

< 駐車場 >



周囲にフェンスがなく、入口にチェーンがない駐車場は、誰もが「入りやすい」場所である。

写真のように、落書きがある駐車場は管理者の注意が行き届かない場所であり、心理的に「見えにくい」場所とも言える。

* 駐車場は犯罪者の待機場所になりやすいので要注意である。

★★★このような場所も「見えにくい」場所です★★★



「死角」

写真のような塀や樹木、構造物等に囲まれている場所は、周囲の人から「見えにくい」場所である。



「視線がない場所」

写真のように周囲に田畑が広がる場所は、人の視線が届かない「見えにくい」場所である。

上の写真と比べて、物理的な障害物はないが、周囲に見てくれる人もいない。



「地域が無関心な場所」

写真のように、塀に落書きがされていたり、ごみが放置されている場所は、地域が無関心な、心理的に「見えにくい」場所である。



「不特定多数の者が集まる場所」

写真のように、不特定多数の人が集まる駅前広場等の場所では、その場にいる一人一人の関心や注意は拡散してしまうので、実は心理的に「見えにくい」場所である。

大勢の人がいるから安心と考えるのは誤り。
こうした場所でも注意が必要である。

フィールドワーク (現地調査)

授業指導案は、P 12 参照

道路や公園などの公共の場で、誰もが「入りやすい」、誰からも「見えにくい」危険な場所を探すとともに、誰もが「入りにくい」、誰からも「見えやすい」安全な場所も合わせて確認する。危険（安全）な場所を見つけたら、写真を撮り、撮影した場所を地図に記録する。また、地域住民に周辺で犯罪に遭うかもしれないと不安に思う場所をインタビューすることで、子供を見守っている大人がたくさんいることに気付かせる。

《班編成と持ち物》

※ 1 班当たり 5～7 名程度



◎班 長

- ・ フィールドワークを実施する場所の住宅地図等
- ・ 腕章（反射して事故防止になるもの）又はビブス

◎副班長

- ・ 腕章（反射して事故防止になるもの）又はビブス

◎写真係

- ・ カメラ
- ・ 腕章（反射して事故防止になるもの）又はビブス

◎地図係

- ・ フィールドワークを実施する場所の住宅地図等
- ・ バインダー
- ・ 筆記用具
- ・ 腕章（反射して事故防止になるもの）又はビブス

◎インタビュー係

- ・ メモ用紙
- ・ バインダー
- ・ 筆記用具
- ・ 腕章（反射して事故防止になるもの）又はビブス

※上記は一般例であり、その都度状況に応じて指導者が選択する。

※ビブスは、体育用に使用するもので問題ない。

※児童の安全確保について

- ①安全確保のための指導体制をしっかりとる。
- ②子供に安全確保について、事前にしっかりと確認しておく。

※フィールドワークの際には、近隣住民の迷惑にならないよう注意する。

【フィールドワークのポイント】

子供が、犯罪が起こりやすい危険な場所に気付くことなく、通りすぎようとした場合は、子供に声をかけ、「入りやすい」「見えにくい」というキーワードを使って、犯罪が起こりやすい場所を考えるように促す。

地域安全マップ作製

授業指導案は、P 14 参照

準備しておくもの（班ごと）

- ①模造紙
- ②はさみ
- ③付箋（コメント等が記載できる大きめのもの。また、カテゴリー別に記載できるように3色程度用意するとよい）
- ④色紙又は色画用紙
- ⑤セロハンテープ又はのり
- ⑥多色ペン又は色鉛筆
- ⑦新聞紙（油性マジック等で作業用テーブルを汚さないために下敷きとして使用する）

班ごとにテーブルと椅子をセットする。また、フローリング等の上で作業をする場合は、班ごとのエリアを決める。

大判の白色模造紙等を卓上等に広げ、フィールドワークをした街の概略（道路、学校、公園、商店街等）を記載する。厚紙等を利用して、立体的な地図を作製することも魅力的な方法である。また、表題として、「〇〇地区 地域安全マップ 平成〇〇年〇月〇日作製」などと記載しておく、いつ作製した、どこのマップなのか明らかとなる。ただし、作製者の名前は個人情報保護の観点から記載しない。同様に、住宅地図の個人名も転記しない。

フィールドワークで発見した危険箇所、安全箇所等の写真を地図上に貼付する。なお、特定の個人名等が分かる表札や車両のナンバープレート等は、黒塗りするなどして見えないようにしておく。

選定した場所が危険（あるいは安全）である理由などに関するコメントを吹き出し等を使って書き込む。なお、はじめに付箋等にコメントを記載し、貼付した写真のバランス等を考えて、最後に地図上に書き込むことも有益な方法である。



○地域安全マップ作製上の注意点

- ・周囲の様子から、危険（安全）である場所を判断する力を身に付けることが目的であるから、場所の特定には意味がない。マップは、フリーハンドで大まかなものを作る。
- ・実際に犯罪が発生した場所を示す犯罪発生マップや不審者が出没した場所を示す不審者マップは、子供の危機回避能力の向上には結びつかないので、子供がつかないように注意しなければならない。

発表会

班ごとに、地域安全マップを黒板等に掲示するなどして、調査結果、作製過程において苦労した点や反省点等について発表する。



発表会に、保護者、地域住民及び防犯ボランティア並びに地元の区市町村職員及び警察署員を招くことにより、地域の防犯意識の向上や行政施策への反映につながる。



平成 26 年地域安全マップコンクール 優秀賞作品例



渋谷区立幡代小学校



板橋区立志村第四小学校

※最優秀賞を受賞した小金井市立南小学校のマップは表紙に掲載されている。

3 授業指導案（全4時間版）

【目標】 子供が通学路等を点検して「犯罪が起こりやすい場所」（だれもが「入りやすく」、だれからも「見えにくい（見られにくい）場所」）を地図に表す作業を通じ、不審者等の「人」ではなく、犯罪が起こりやすい「場所」に着目させる。そして子供の危険予測能力を高め、安全に行動できるようにするとともに、安全安心なまちづくりを目指す。

【学習問題】

犯罪に遭わないためにはどうしたらいいかを考えよう。

【授業計画】

授業時数	学習内容と活動
1	■事前学習〈地域安全マップってなんだろう、地域安全マップをつくる計画を立てよう〉 ○ 危険な場所はどんな場所かを確かむ。 ・ 動画教材DVD「景色で学ぼう！ 新・地域安全マップづくりDVD」を見る。 ○ フィールドワークのために必要なことを確認し、準備をする。 ・ グループ編成や役割を確認する。 ・ 調査エリアやフィールドワークの決まりについて確認する。 危険な場所とはどんな場所かを考え、フィールドワークの計画を立てよう。
2	■フィールドワーク〈地域に出て調査をしよう〉 ○ 前時の復習をする。 ○ フィールドワークをする。 ・ 「入りやすいか」「見えにくい」を基準に調査をする。 ・ 話し合いながら調査をする。 ・ 気付いたことをメモし、写真を撮影する。 ・ 地域の人にインタビューをする。 自分たちの地域に、危険な場所はないかを実際に調査しよう。
1	■マップ作製〈地域安全マップをつくろう〉 ○ 地域安全マップを作製する。 ・ 地域安全マップのつくり方を知る。 ・ 「入りやすい」「見えにくい」の言葉を使ってマップにまとめる。 ・ 抽象的な言葉ではなく、具体的な言葉を使ってまとめる。 ○ 学習を振り返り、「安全のための注意事項」について知る。 グループごとに地図にまとめ、友達や地域の人に見せよう。また、学んだことをどのように生活に活かしたらいいかを考えよう。

※授業時数は例示であるため、学級の実態や学校の周辺環境に合わせて、工夫して授業するとよい。

※8時間版の授業指導案を都のホームページ「大東京防犯ネットワーク」に掲載しているので、本指導案と組み合わせながら時間をかけて授業を実施することもできる。

時間短縮のポイント

- 東京都の動画教材 DVD を効果的に使用し、子供に「入りやすく」「見えにくい」場所を意識させる。
- 地図作製は、教員があらかじめ模造紙に調査ルート（子供が歩く道路のみ）の概略を書いておいて、子供は写真を貼り、景色を認識したことを確認するためのコメントをつける作業を中心に行う。

(第1時／4時間 事前学習) ※特に重要な点を太字で示す。

(1) 本時の目標

- 危険な場所、安全な場所を見分けるためのキーワード「入りやすい場所」「見えにくい場所」について学び、危険な場所、安全な場所を見分けることができる。
- フィールドワークを実施するための、計画を立案することができる。

(2) 本時の展開

	主な学習内容と活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導入	1 学習の流れをつかむ。 ○ 犯罪に遭わないようにするための学習であることを知らせる。 ○ 犯罪には、どのようなものがあるか確認する。 2 本時のめあてを確認する。 危険な場所とはどんな場所かを考え、フィールドワークの計画を立てよう。	◎ 子供の実際の被害体験を深く掘り下げないようにする。 ◎ 殺人、誘拐といった犯罪について触れるとともに、声かけやつきまといも犯罪の前兆事案であることを伝える。 ◎ 危険な場所を理解することで、犯罪に遭いにくくなることを伝える。
展開	3 「危険な場所」とはどんな場所かを確かむ。 ① 東京都の動画教材DVD「景色で学ぼう！新・地域安全マップづくりDVD」（16分）を見て、危険な場所とはどんな場所かを知る。 ・ 入りやすく見えにくい… 危険 ・ 入りにくく見えやすい… 安全 ② 危険な場所と安全な場所とを比較したイラストのプリント（P 15 参照）を配布し、クイズ形式で「どちらが危険な場所か」を考えさせる。 4 フィールドワークの決まりを確認する。 ○ フィールドワークの決まり ・ 交通ルールを守る。 ・ 1列になって歩き、走らない。 ・ ひとりで行動しない。 ・ 決められた時間までに戻る。 5 グループ編成等を確認する。 ① グループ編成を伝える。 ② グループ内の役割を伝える。 ③ それぞれの調査エリアを確認する。	◎ 入りやすく見えにくい「危険な場所」のイメージが定着するよう十分に時間を取る。 【物理的に入りやすく、見えにくい場所】 ・ ガードレールがなく、周囲が高い塀に囲まれている道路 ・ フェンスやチェーンがなく、周りが壁に囲まれた駐車場 ・ フェンスがなく、建物の窓に面していない公園 【心理的に見えにくい場所】 ・ 落書きやごみが放置されている場所、不特定多数の人が集まる場所 ◎ グループ編成と役割分担は教員が決め、子供に知らせる。全員が係を担当するようにする。 ◎ 調査エリアの白地図を用意し、提示する。 ◎ インタビューの仕方を指導する。 ◎ 写真の撮り方を指導する。 ◎ メモの取り方を指導する。
まとめ	6 本時のまとめをする。 ○ 学習したことを振り返る。 【子供の反応例】 ・ 「人ではなく、場所に着目することが大切で、『入りやすく見えにくい』場所が危険です。」	◎ グループごとに振り返りをする。 ■ 【関心・意欲・態度】安全マップづくりに協力して取り組もうとしている。（行動観察・振り返りカードなど） ■ 【思考・判断】見通しをもって、課題解決や探究のための方法を考えている。（行動観察・振り返りカードなど）

(第2・3時／4時間 フィールドワーク)

(1) 本時の目標

- 「入りやすい」「見えにくい」のキーワードをもとに、危険な場所を考えながらフィールドワークをすることができる。

(2) 本時の展開

	主な学習内容と活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	1 前時の学習を復習する。 ○「危険な場所」とはどんな場所かを思い出す。 ・入りやすく見えにくい…危険 ・入りにくく見えやすい…安全 ○グループごとに、調査内容・役割を再確認する。 2 本時のめあてを確認する。 自分たちの地域に、危険な場所はないかを実際に調査しよう。 3 フィールドワークの決まりを再確認し、必要な物品を配付する。	◎「危険な場所」のキーワードを確認させるとともに、フィールドワークのめあてを明確にする。 ◎役割を明確にすることで、一人一人の考えが活かされ、より協同的な学びが生まれる。 ◎フィールドワークに必要な物品は事前に準備する。(P7参照) ・デジタルカメラ…写真係 ・地図…班長、地図係、補助員 ・メモ用紙…インタビュー係 ・バインダー、筆記用具…地図係、インタビュー係 ・腕章又はビブス…全員 ◎フィールドワークの決まりは、短時間で確認できるようにする。
展 開	4 フィールドワークをする。 ①グループごとにフィールドワークをする。 ②「入りやすい(にくい)」「見えにくい(やすい)」のキーワードをもとに、立ち止まって話し合う。 ③写真を撮影する。 ・「入りやすい(にくい)」「見えにくい(やすい)」場所を撮影する。 ④危険(安全)な場所であると気付いたり、考えたりしたことを地図やメモに書き込む。 ・「入りやすい(にくい)」「見えにくい(やすい)」というキーワードを使って、理由を書くようにする。 ・危険な場所だけでなく、安全な場所(「子供110番の家」など)があったら地図に記入する。 ⑤地域の人にインタビューをする。 ・地域の防犯についての授業(地域安全マップづくり)であることを伝えてからインタビューをする。 ・インタビューの内容 「犯罪に遭うかもしれないと不安になる場所がありますか？」 ・インタビューで教えてもらった場所に行き、確認をする。	◎暑い日は帽子を着用させ、水筒を持参させる。 ◎1グループに1人以上の補助員(教師または地域のボランティアの方、PTAの方など)が同行することが望ましい。 ・補助員は道路側を歩くようにし、子供全体の行動に気を配る。 ・子供が自発的に気付き、体験することを目的としているため、補助員は子供の気付きや思考の手助けをする。 ・危険な場所やポイントとなる場所に子供が気付かない場合は、補助員から助言し、子供で話し合うようにさせる。 補助員「この場所は危険かな？」 子 供「危険！」 補助員「どうしてかな。キーワードを使って説明できる？」 補助員「よく気付いたね！」 ◎話し合いをしながら、フィールドワークができるように支援する。 ◎写真係が写真を撮影する。 ・プライバシーの侵害につながるような写真は撮影しない。 ・家の中、人の顔、表札、車両ナンバー など ・撮影した場所を地図係に知らせ、地図係は記入する。

	主な学習内容と活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
展 開		・ 補助員は、子供がむやみに撮影しないように注意を促す。 ・ 撮影前には、みんなで話し合いをさせる。 ・ 入りやすい（にくい）、見えにくい（やすい）ことが分かりやすいように撮影する。 ◎ 地図係は、気付いたことを地図やメモに書き込む。 ◎ 補助員は、子供が危険な場所だけでなく、安全な場所にも気付くことができるように言葉かけをする。 ◎ 「子供110番の家」は、小学校社会科4年「地域の安全」で学習する。 ◎ 地域の人と出会ったら、役割分担に従って、インタビューをする。 ・ インタビューは、子供にさせる。 ・ 礼儀正しく行えるようにする。 ・ インタビューで地域住民から教えてもらった場所には、できるかぎり行って確認させるようにするが、特に危険と判断される場合はインタビューだけにとどめる。 ○ 決められた時間に間に合うように、教室に戻る。 ■ 【関心・意欲・態度】 友達と協力して活動することができる。（行動観察）
ま と め	5 本時のまとめをする。 ○ 学習したことを振り返る。 【子供の反応例】 ・ 「学校のまわりにも、たくさん危険な場所があることがわかったので、注意します。」	◎ グループごとに振り返りをする。 ◎ 各グループの調査内容に目を配り、次時の調査（または地域安全マップづくり）につながるような助言をする。 ◎ 補助員にお礼を言う。 ■ 【知識・理解】 「入りやすく見えにくい」のキーワードの意味を理解している。（行動観察・振り返りカードなど）



(第4時／4時間 マップ作製)

(1) 本時の目標

- フィールドワーク時のメモや写真、インタビューをもとに、危険な場所や安全な場所を分かりやすく地域安全マップにまとめることができる。

(2) 本時の展開

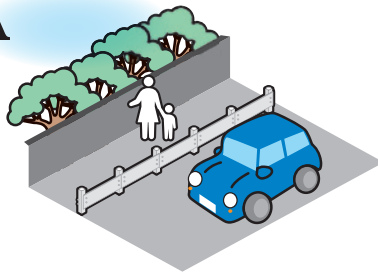
	主な学習内容と活動	◎支援・留意点 ■評価規準（評価方法）
導 入	1 本時のめあてを確認する。 グループごとに地図にまとめ、友達や地域の人に見せよう。また、学んだことをどのように生活に活かしたらいいかを考えよう。 2 マップ作製に必要なものを配付する。	◎ 学習のめあてを知らせる。 ◎ マップ作製に必要な物品を準備（P 8 参照）し、撮影した写真は、事前に印刷（プリント）しておく。 ・模造紙、はさみ、付箋、色紙、セロハンテープ、多色ペン、新聞紙
展 開	3 地域安全マップのつくり方を知る。 ① 地図（街並みなど）を描く。 ・調査をした道順、学校、道路、公園など、フィールドワークした地区の簡便な地図を描く。 ・マップのタイトルとグループ名、調査年月日を書く。 ② 写真を貼る。 ・危険（安全）な場所の写真を話し合っ	◎ 地図の作製例などを提示し、地域安全マップのつくり方を理解させる（キーワードの再確認）。 ◎ 授業開始前に教員が模造紙にあらかじめ調査ルートの概略を描いておくと時間短縮につながる。 ◎ 危険な場所や写真のコメントを分かりやすく表示することが重要であることを知らせ、地図は細かいところまで描く必要がなく、建物などの位置関係は厳密でなくてもよいことを理解させる。 また、マップのタイトルとグループ名は、役割分担をし、地図を描く作業と並行して進めると効率的である。 ◎ 地図には、住宅地図の個人名などは書かないよう注意をする。 ◎ コメントは、「入りやすい（にくい）」「見えにくい（やすい）」という2つのキーワードを用いて、その場所の特徴を具体的に書かせる。また、全員が必ず1枚以上書くようにする。 ■【技能・表現】地域安全マップの作製において、危険な場所や安全な場所が見やすく、分かりやすく表現することができる。（行動観察・マップ）
ま と め	4 作製したマップを黒板などに掲示する。 5 地域安全マップづくりで学んだことをおさらいする。 6 「安全のための注意事項」を指導する。 ・犯罪が起こりやすい、危ない場所には近づかない。 ・やむを得ず、危ない場所を通らなければならないときは、保護者や友達等複数で行くようにする。ひとりでは行かない。 ・一緒に行く人はいないが、どうしても危ない場所を通らなければならないときには周囲の様子に注意して通るようにする。	
	7 本時のまとめをする。 ○ 学習したことを振り返る。 【子供の反応例】 ・「つくったマップを掲示することで、他の班の人や保護者の人にも危険な場所を伝えたいです。」 ・「街中では、『安全のための注意事項』を意識して、行動するようにします。」	◎ 個人ごとに振り返りをする。 ■【知識・理解】犯罪が起こりやすい場所やそこで気をつけなければならないこと（「安全のための注意事項」）を理解している。（行動観察・振り返りカードなど）

○事前学習用イラストシート AとBはどちらが危険？

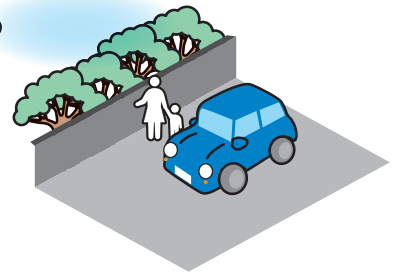
Q 1

ガードレールがある道路Aとガードレールがない道路B

A



B



Q 2

塀が低い家の前の道路Aと塀が高い家の前の道路B (昼間)

A



B



Q 3

塀が低い家の前の道路Aと塀が高い家の前の道路B(夜間で照明点灯)

A



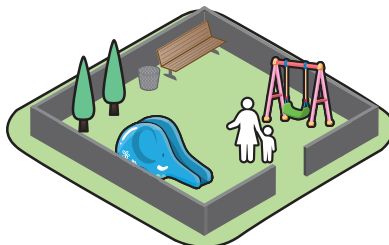
B



Q 4

塀に囲まれた公園Aと柵に囲まれた公園B

A



B



Q 5

きれいな公園Aと落書きやごみが放置された公園B

A



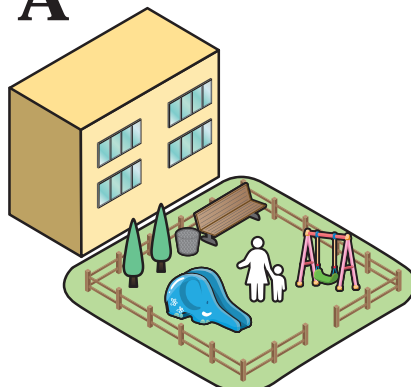
B



Q 6

隣接するマンションの窓が公園を向いているAと向いていないB

A



B



○事前学習用イラストシート回答

※「危険」とは、「犯罪が起こりやすいこと」を指します。

A 1 Bの方が危険

Aは、ガードレールがあり、誰でも物理的に入りにくい。

Bは、ガードレールがなく、誰でも物理的に入りやすい。

A 2 Bの方が危険

Aは、塀が低く民家からの視線が届くため、物理的に見えやすい。

Bは、塀が高く民家からの視線が届かないため、物理的に見えにくい。

A 3 Bの方が危険

照明が点いたとしても、

「Aは、塀が低く民家からの視線が届くため、物理的に見えやすい。

Bは、塀が高く民家からの視線が届かないため、物理的に見えにくい。」

という状況は変わらない。

A 4 Aの方が危険

Aは、塀で囲まれているため、周囲から物理的に見えにくい。

Bは、柵で囲まれているため、周囲から物理的に見えやすい。

A 5 Bの方が危険

Aは、落書き・ごみが片付けられており、地域住民の関心が高いため、見てもらいやすい（心理的に見えやすい）。

Bは、落書き・ごみがあり、地域住民が無関心であるため、見てもらいにくい（心理的に見えにくい）。

A 6 Bの方が危険

Aは、隣接する建物の窓側に面しているため、物理的に見えやすい。

Bは、隣接する建物の窓側に面していないため、物理的に見えにくい。

企画 東京都青少年・治安対策本部 総合対策部 安全・安心まちづくり課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 第一本庁舎北塔34階

協力 地域安全マップづくり指導マニュアル編集委員会

委員長 立正大学文学部教授 小宮信夫

委員 教育庁指導部指導企画課

委員 警視庁生活安全部生活安全総務課

委員 青少年・治安対策本部総合対策部安全・安心まちづくり課

平成28年7月発行 登録番号 28(2)



